

レベル区分の目安

レベル	職業能力評価基準(鑄造業)におけるレベル区分の目安	
	技術系	製造系
レベル4	大規模組織の責任者として、組織目標や計画を設定し、広範かつ統合的な判断及び意思決定を行いながら組織全体を統率するために必要な能力水準	
レベル3	●管理者 中小規模組織の責任者として、上位方針を踏まえた担当組織のミッションの遂行、適切な組織運営を行い、企業利益の創出に貢献するために必要な能力水準	●スペシャリスト(熟練技能者、監督業務も含む) 高度な技能を有し、精密な作業やトラブル解決を行い、鑄造品の品質向上や製品の高付加価値化に貢献するために必要な能力水準
	●スペシャリスト(専門技術者) 高度な専門技術を有し、担当分野における技術開発や問題解決等を通じて、技術レベルの向上や製品の高付加価値化に貢献するために必要な能力水準	中小規模組織の製造ラインの責任者として、上位方針を踏まえた担当組織のミッションの遂行、作業現場の管理・監督を行うために必要な能力水準
	(参考:技能検定1級程度)	
レベル2	グループやチームの中心メンバーとして、創意工夫を凝らして課題への対応策を主体的に考え、改善、提案等を行いながら業務を遂行するために必要な能力水準	
	(参考:技能検定2級程度)	
レベル1	担当者として、上位者の指示・助言を踏まえて定例的業務を確実に遂行するために必要な能力水準	
	(参考:技能検定3級程度)	

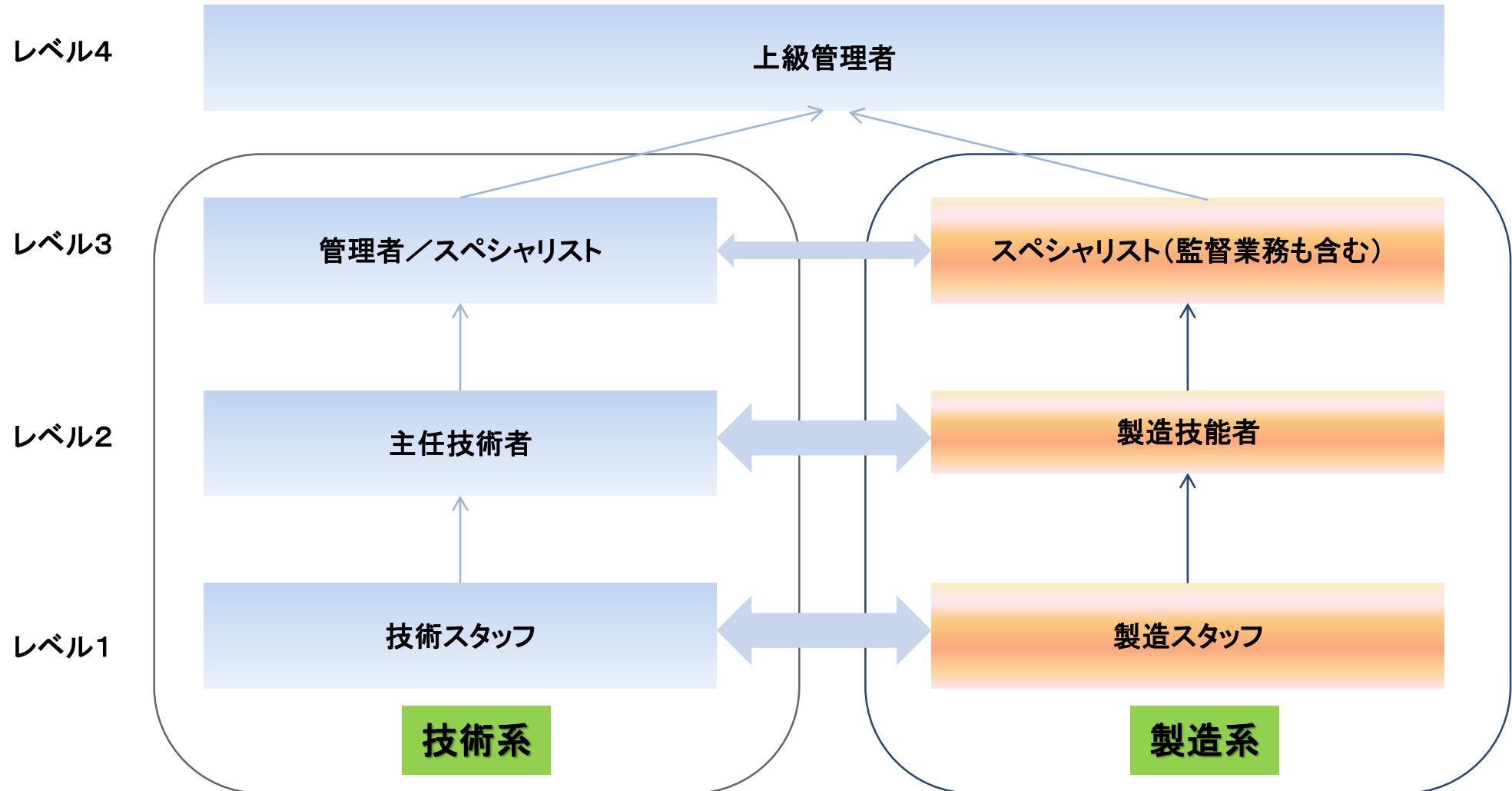
注: レベル1とは、技術系では「技術スタッフ」、製造系では「製造スタッフ」を意味する。

レベル2とは、技術系では「主任技術者」、製造系では「製造技能者」を意味する。

レベル3のスペシャリストとは、技術系では「専門技術者」、製造系では「熟練技能者」を意味する。

レベル4とは、「上級管理者」を意味する。

キャリア形成の例



注: レベル3のスペシャリストとは、技術系では「専門技術者」、製造系では「熟練技能者」を意味する。